

もうひとつのIP電話「Skype」の展開

平山 義明 ● Skypeパートナーズ・コミュニティ日本 会長

Skype Technologies社（以下スカイプ社）によると、現在（2007年4月）のSkype登録ユーザー数は1億9600万人となり、このうち日本は、420万人になっている。ソフトのダウンロード数は、5億回を超えた。また、同時接続ユーザー数は、900万人（2007年4月）を超えた。Skypeは無料のインターネット電話として2003年7月にサービスを開始。世界規模で急速に普及し、現在も拡大のスピードは落ちていない。

Skypeの特徴は、以下のことが挙げられる。

- (1) 無料で利用できること。ソフトが無料。インターネットの接続環境があれば、ISP問わず利用できる。
- (2) 通話品質がよいこと。インターネットの環境でも十分な品質をカバーする機能を具備している。音域は、8KHz（固定電話3.4KHz）をサポート。
- (3) 簡単で便利なこと。ソフトをダウンロードしてPCにインストールする。ネットワーク環境を気にせずに利用が開始できる。ソフトフォン、チャット、ファイル転送も操作が簡単である。
- (4) 多くのプラットフォームに組み込みが可能であること。Windows系PC、PDA、Mac、Linuxで利用ができる。
- (5) 高いセキュリティを確保していること。AES（Advanced Encryption Standard）アルゴリズムを利用した暗号化を行っており、盗聴できない。
- (6) 既存の電話と通話が可能であること。オプションであるが他のIMと違って050番号での着信や一般公衆電話への発信を可能としている。

■企業に広がるSkype

Skypeの登録ユーザーの30%が企業内ユーザーであることが報告されている。これは、ビジネスシーンでSkypeが有効に利用され始めている証である。Skype3.0以降、ビジネスにフォーカスした機能として複数アカウントを管理する「コントロールパネル」やビジネスユーザー向け専用ポータル「Skype Biz」、サードパーティー製プラグインAPの「ビジネス用エクストラ」（デスクトップ共有、CRMなど）を装備した。

市場でも新しいソリューションサービスが登場してきている。企業でIP電話を入れるのは、初期コストがかさむが、Skypeだけでは、機能が不十分な部分（代表着信、同報、転送など）がある。それをカバーする簡易PBX機能を実現するソリューション「Beltre2.0forSkype」（マイスターズコーポレーション）や、情報システム部門向けにSkypeの利用を一元管理するツール「Office for Skype」（Zettaテクノロジー）、さらに、050番号での発着信を可能とし、通話料金は後払いとした「フュージョンでSkype」（フュージョン・コミュニケーションズ）など企業で利用する環境が整ってきている。

先進事例として沖縄県北谷町役場では、2006年11月にSkypeを導入。通信費の削減を実現したが、さらにチャットやファイル転送が業務効率化を促進したと報告している。アンケートの結果、96%の職員が業務で利用できるかと答えている。

Skypeは、単にIP電話という概念でとらえられない。すべてのインターネットソリューションに電話とネットワークを融合することを可能にする。ポ

ータルサイト、SNS、グループウェア、スケジュール管理ツール、名刺データベースなどとSkypeの連携が増えている。単なるIMや電子メールやブログのようなテキストベースではない、音声ベースのコミュニケーションが可能となり、今後、利用の幅をますます拡大していくと思われる。

■無線LANインフラとモバイル Skype

FON（フォン）とは、インターネットに接続されているユーザー同士が専用無線LANルーター「La Fonera」（ラ・フォネラ）を設置し、APを他人に貸すことで公衆無線LANインフラを利用可能にする相互利用型のサービスだ。日本では、2006年12月よりスタートし、都心部に集中しているが、すでに1万7000台以上の登録がある（2006年4月）。現在、自分のAPを他人に開放することで、利用料は無料になる。FONには、スカイプ社やグーグルが資本参加しており、今後の世界的なモバイルインターネット接続、Skype展開に拍車がかかると思われる。

また、無線IP携帯「ロジテック LAN-WSPH01WH」や無線LAN端末「ソニー mylo」（マイロ）がSkypeを搭載して発売された。これらがFONに対応することで、屋内だけでなく、屋外でもFONのAPを利用して携帯電話感覚でSkypeの通話が可能となる。また、携帯事業者のウィルコムも無線LAN対応のPDA型PHS端末シャープ W-ZERO3[es]を発売した。今後モバイルの利用環境がますます拡大するなかで国内から世界までもその利用シーンは広がるとと思われる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp